特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡47

平成28年度発掘調査・環境整備事業概報

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

第149次発掘調査区全景（北より）

第149次発掘調査石組溝（１トレンチ）（南より）

第149次発掘調査出土刀子鞘

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡47

平成28年度発掘調査・環境整備事業概報

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

序　　文

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡（以下「遺跡」という。）の発掘調査・環境整備事業は、平成24年度の機構改革により、当館が教育庁から知事部局（観光営業部）に移管されたことに伴い、教育庁埋蔵文化財調査センターに引き継ぎましたが、平成29年度から、遺跡に係る史跡・埋蔵文化財の調査・研究および保存・活用に関する事務が知事部局（観光営業部）に委任され、当館で実施することになりました。現在は、当館で、遺跡の発掘調査・環境整備・保存修理事業を含む資料の収集、保存（保管）、研究、展示、教育活動など資料館としての事務・事業を一元的に実施しています。

平成28年度は、平成23年度に改定した「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘・整備基本計画」の短期計画（計画期間：平成24～28年度）に基づき各種事業を実施しました。

発掘調査は、城戸ノ内町字門ノ内・上城戸、東新町字上ノ木戸で実施し、前者では以前の発掘調査から想定されていた道路側溝と思われる遺構を検出しました。

環境整備は、平成26年度から実施している西山光照寺跡の整備において、排水を目的とした側溝の布設を完了しました。劣化対応事業では、遺跡内の環境データの収集のほか、石遺構に施工する接着剤や方法を決定するための試験等を継続して実施しました。

なお、平成29年度以降は、平成28年度に改定した短期計画（計画期間：平成29～33年度）に則って、引き続き、遺跡の発掘調査・環境整備・保存修理事業等を実施します。併せて、遺跡の新たな拠点施設となる「一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）」の整備について、平成33年度中の開館を目指し、全職員が一丸となって取り組んでまいります。

諸事業の実施に当たりまして、ご支援・ご協力をいただきました文化庁および地元の皆様をはじめとする関係各位に感謝申し上げますとともに、今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

平成30年３月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
館長　向出宏二

例　言

1．本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが平成28年度に実施した、国庫補助事業による発掘調査及び環境整備事業の概要報告書である。
2．本書は、第149次発掘調査の成果、西山光照寺跡整備工事の概要について収録した。
3．本書の作成にあたっては、事業を引き継いだ福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の担当職員が各項目を執筆し、項目末に文責を記した。
4．遺構番号の頭に付した略記号は以下のとおりである。
SA：土塁（土塀・柵）、SD：溝・濠、SS：道路、SX：その他
5．本文中の説明で使用する方位は、地図上の方位と異なり、第149次発掘調査については、上城戸跡土塁を南、一乗谷川側を西としている。西山光照寺跡整備工事については、山側を西、足羽川側を東としている。

目　次

1．平成28年度の事業概要 …… 1
2．第149次発掘調査 …… 4
　遺構 …… 5
　遺物 …… 6
3．西山光照寺跡整備工事 …… 9

挿図目次
第1図　平成28年度発掘調査・環境整備位置図（縮尺1/15,000） …… 2
第2図　第149次発掘調査区位置図（縮尺1/1,500） …… 3
第3図　西山光照寺跡整備工事位置図（縮尺1/1,500） …… 3
第4図　1～3トレンチおよび過去の調査区の平面図（縮尺1/400） …… 4
第5図　石組溝実測図（縮尺1/80） …… 5
第6図　4トレンチ平面図（縮尺1/400） …… 5
第7図　出土遺物実測図（縮尺1/4・1/3・1/6・2/3） …… 8
第8図　西山光照寺跡整備工事平面図（縮尺1/500） …… 10
第9図　排水工　蓋掛U字側溝断面図（縮尺1/10） …… 11
第10図　排水工　集水桝構造図（縮尺1/20） …… 11

表目次
表1　平成28年度事業概要一覧 …… 1
表2　1～3トレンチ出土遺物一覧 …… 6
表3　4トレンチ出土遺物一覧 …… 7

写真図版
第149次発掘調査遺構 …… PL. 1～3
第149次発掘調査出土遺物 …… PL. 4
西山光照寺跡整備工事 …… PL. 5

1．平成28年度の事業概要（第１～３図）

一乗谷朝倉氏遺跡は、昭和42年度以降継続的に発掘調査・環境整備を実施しており、昭和46年の特別史跡指定を機に史跡公園化構想・基本計画を策定し、これに基づいて計画的に事業を実施してきた。平成24年度からは、平成23年度に改定した基本計画に基づいて事業を実施している。平成28年度は表１のように、発掘調査２件、環境整備工事１件、劣化対応事業を実施した。

発掘調査は、国庫補助事業の計画調査を１件実施した。第149次調査は、上城戸跡北側を対象として行った第138次調査で一部を検出した道路跡が、第127・136次調査で検出した大溝に沿って存在するかどうか確認するため、大溝に直交する方向にトレンチを設定し、道路跡の有無と堆積状況を確認した。また、上城戸跡南側の県道沿いで新たに公有化された土地において、遺構の遺存状況を確認した。以上のほか、県土木事業の一乗谷川河川改修に伴い、上城戸跡南側の一乗谷川沿いで第148次調査を実施した。

環境整備は、遺跡の入口部に位置する西山光照寺跡の整備工事を平成26・27年度に引き続き実施した。既整備地に隣接する南側地境を対象に、排水を目的とした側溝布設を行い、排水工をすべて完了した。

劣化対応事業は、遺跡内の環境データの収集のほか、石遺構に施工する接着剤や施工方法を決定するための試験等を平成24年度から引き続き実施した。

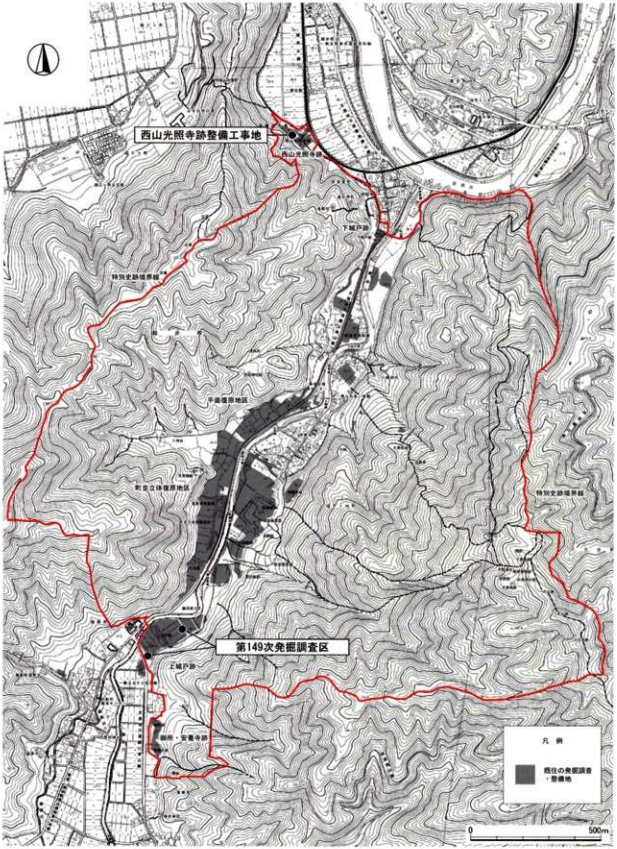
なお、一乗谷川河川改修事業に伴う発掘調査は、国土交通省の国庫補助を受けて実施しており、詳細は福井県教育庁埋蔵文化財調査センター平成29年度刊行の『年報32―平成28年度―』を参照いただきたい。また、劣化対応事業は平成24年度からの成果をまとめた当館平成29年度刊行の『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡劣化対応事業報告書Ⅰ』を参照いただきたい。

（熊谷）

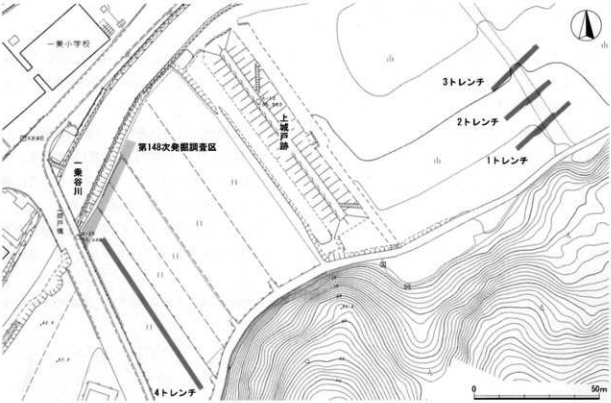
表１　平成28年度事業概要一覧

調査次数	発掘調査箇所	調査期間	面積	調査事由
第148次	福井市東新町字上ノ木戸	平成28年５月９日～６月30日	200㎡	河川改修事業に伴う発掘調査『年報32』に掲載
第149次	福井市城戸ノ内町字門ノ内・上城戸、東新町字上ノ木戸	平成28年７月19日～９月30日	300㎡	基本計画に基づく発掘調査

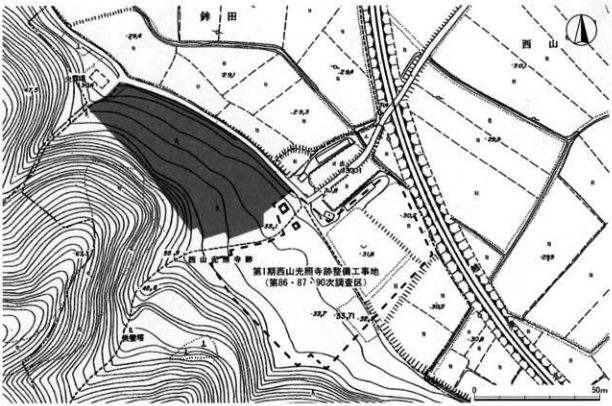
工事名	環境整備箇所	調査・整備期間	面積	整備事由
西山光照寺跡整備工事	福井市安波賀中島町字赤旗ノ式	平成28年７月22日～12月１日	50㎡	基本計画に基づく整備
劣化対応事業	福井市城戸ノ内町朝倉館跡等	平成28年４月１日～平成29年３月31日	—	保存管理計画・基本計画に基づく事業『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡劣化対応事業報告書Ⅰ』に掲載



第１図　平成28年度発掘調査・環境整備位置図（縮尺1/15,000）



第２図　第149次発掘調査区位置図（縮尺1/1,500）



第３図　西山光照寺跡整備工事位置図（縮尺1/1,500）

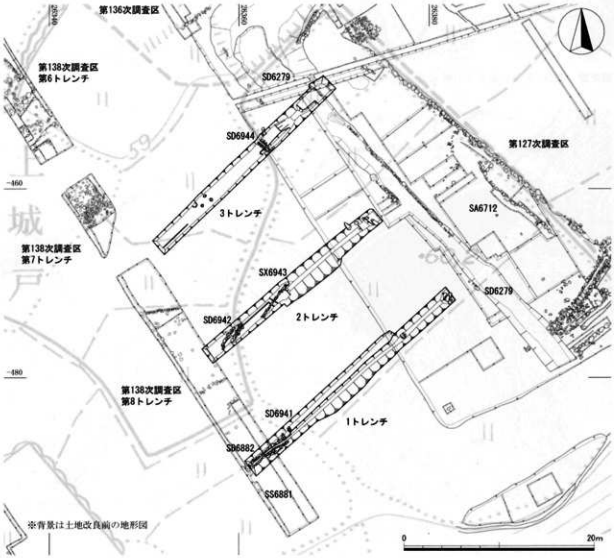
2．第149次発掘調査

発掘・整備基本計画に基づき、都市構造の解明を目的として平成24年度から上城戸跡周辺地区の発掘調査を実施している。上城戸跡周辺地区での解明すべき主な課題に、上城戸入口の位置や一乗谷川右岸側の幹線道路がある。

これまで実施した調査の結果、第138次調査の第８トレンチで検出した道路跡SS6881を幹線道路として有力視しているが、その北側の延長方向には大溝SD6279および土塁SA6712があり、第130次調査で検出したガラス工房等を含む屋敷地を区画している。屋敷地は東側の山裾に接していることから、道路跡SS6881が幹線道路だとすれば、SD6279の手前で西（一乗谷川側）へ屈曲するものと想定できる。

そこで今回の調査では、上記の想定どおり道路跡がSD6279に沿って存在するかどうかの確認調査を実施した。方法は幅２ｍのトレンチをSD6279とほぼ直交する方向に３本設定し（１～３トレンチ）、道路跡の有無と堆積状況を確認した。

また、上城戸跡南側の県道沿いで平成27年度に新たに公有地化された土地において、遺構の遺存状況を確認するためのトレンチ調査を実施した（４トレンチ）。

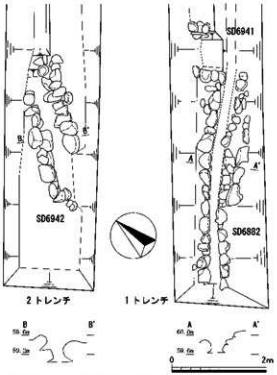


第４図　１～３トレンチおよび過去の調査区の平面図（縮尺1/400）

遺構（第５～６図、ＰＬ．１～３）

１トレンチ　南北および東西方向の石組溝を検出した。南北方向の石組溝は第138次調査で検出した道路SS6881の側溝SD6882と同一のもので、再検出した部分もあわせて約4.5mを確認した。幅0.2～0.3mを測る。側石は１～２段である。北端は東西方向の石組溝SD6941に接続する。SD6941は幅約0.8mを測る。東側の石組は撹乱により失われていたが、トレンチ壁面の観察から東方へも延びるものと推測している。なお、SD6882の東側石に接して大振りの石が並ぶ様子を確認した。今回全容は明らかにできなかったが、やはり道路に付属する遺構の可能性がある。

２トレンチ　南北方向の石組溝SD6942を検出した。検出長約3.0m、幅約0.4mを測る。側石は２段である。南端で東方へ曲がる様子がうかがえ、SD6941と一連の可能性もある。このほか、SD6942の約４m北側に並行して石列SX6943を検出した。SX6943はSD6942より上層の遺構で、小振りな石を用いている。SD6942の東側石上端にも同様の石が積まれており、これと対になる可能性がある。

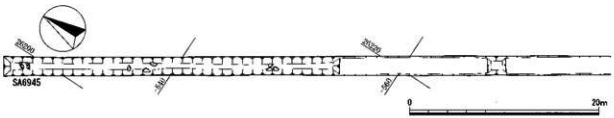


第５図　石組溝実測図（縮尺1/80）

３トレンチ　東西方向の石組溝SD6944を検出した。検出長約1.3m、幅0.2～0.3mを測る。側石は１段である。石材はやや小振りで溝幅も狭いが、第４図に示した土地改良前の地形図を参照すると、SD6941・6942と一連になる可能性がある。このほか、SD6944の約２m北側で、第136次調査で検出した大溝SD6279の南肩のつづきとみられる落ち込みを検出した。

以上、１～３トレンチについて記述した。いずれも道路面と認められるような砂利敷きなどの造作は確認できなかったものの、東西方向の石組溝を検出したことにより、道路の存在した可能性は残るものと考える。引き続き調査の課題としたい。

４トレンチ　一乗谷川側の端において、上下２段の石列を伴う段SA6945を確認した。この段は土地改良前の地形図にみえる水田の境にあたるようであり、同時に第141次調査で検出した土塁SA6908・6918の西縁と一連の可能性がある。当トレンチではこれ以外の遺構は確認できず、広く削平を受けているものと考えられる。第141次調査においても山側では広い範囲で遺構面の削平が認められ、これを追認する結果となった。



第６図　４トレンチ平面図（縮尺1/400）

遺物（第７図、ＰＬ．４）

第149次発掘調査（調査面積300㎡）で出土した遺物の総数（破片点数）は5,148点である。１～３トレンチと４トレンチは上城戸跡を隔てて大きく離れており、遺物の出土傾向に様相差を想定しうることから、別々に内訳表を作成した（表２・３）。

１～３トレンチ（面積計156㎡）では総数3,977点が出土しており、１㎡当たりの遺物密度は25.49点／㎡となる。この数字は字上城戸の全体にわたってトレンチ調査を実施した第138次の23.57点／㎡と同様に周辺の他の調査区と比べてかなり高い。また、土師質土器の占める割合が特に高いことも第138次と同様で、第149次１～３トレンチでは８割を超えている。ただし、第138次では石積施設などから完形に近い個体がまとまって出土しているのに対し、第149次では遺構の検出そのものが少なく、遺存状態の良い土師質皿はほとんど認められない。完形品はSD6882およびSD6942から各１点出土した個体がすべてである。なお、１トレンチ北半に認められた暗灰色粘質土（下層包含層）から土師質皿の小破片が散漫

表２　１～３トレンチ出土遺物一覧

器種			破片数	%
日本産陶磁器	城前焼	甕	181	
		壺	22	
		鉢	19	
		擂鉢	94	
		桶	1	
		計	317	7.97
	土師質	皿	3,331	
		土釜	7	
		土鈴	2	
		その他	3	
		計	3,343	84.06
	瀬戸・美濃	鉄釉 碗	25	
		壺	5	
		瓶	3	
		小計	33	0.83
		灰釉 碗	8	
		皿	15	
		卸皿	1	
		鉢	4	
		壺	1	
		香炉	1	
		小計	30	0.75
		計	63	1.58
	瓦質	火鉢	2	
		香炉	10	
		瓦燈	5	
		計	17	0.43
	信楽		1	0.03
	須恵器		1	0.03
	近世		16	0.40
合計			3,758	94.49

器種			破片数	%
中国製陶磁器	青磁	碗	33	
		皿	10	
		鉢	1	
		盤	1	
		壺	1	
		香炉	1	
		瓶	2	
		小計	49	1.23
	白磁	碗	1	
		皿	12	
		杯	3	
		小計	16	1.16
	染付	碗	9	
		皿	31	
		杯	1	
		香炉	1	
		小計	42	1.06
	計		137	3.44
朝鮮製陶磁器			4	0.10
外国産　合計			141	3.55

器種		破片数	%
金属製品	釘	1	
	銅銭	11	
	合計	12	0.30
石製品	バンドコ	8	
	臼	5	
	硯	1	
	砥石	6	
	玉石	6	
	白	1	
	鉢	2	
	その他	8	
	合計	37	0.93
木製品	漆器	1	
	碗	8	
	桶	1	
	箸	1	
	櫛	1	
	その他	11	
	合計	23	0.58
その他	羽口	1	
	ガラス製品	1	
	骨	1	
	種子	1	
	炭	2	
	合計	6	0.15
総合計		3,977	100.00

とではあるが、かなり多く出土する傾向が認められ、今後の調査では注意を要する。

4トレンチ(面積144㎡)では総数1,171点が出土しており、1㎡当たりの遺物密度は8.13点／㎡となる。この数字は上述した1～3トレンチや字上ノ木戸全体にわたってトレンチ調査を実施した第141次の18.7点／㎡に比べるとかなり少ないが、土師質土器の占める割合の高さは類似するようである。

以下、掲載した遺物について記述する。なお、越前焼大甕・擂鉢の分類は福井県立朝倉氏遺跡資料館(1983)、土師質皿の分類は福井県教育委員会(1979)に依拠している。

越前焼　1～3は大甕Ⅳ群の口縁部である。3は1・2に比べて端部の肥厚が小さく、Ⅳa群に分類される。4は短頸甕で、肩部にヘラ記号をもつ。5は壺で、口頸部はほぼ直立する。6・7は擂鉢Ⅳ群である。6は10条、7は9条一単位の擂目をもつ。6の口縁端部内側が強い角をなすのに比べ、7はなだらかに沈線へ移行している。8は口縁部が内湾する小形の鉢である。

土師質土器　9～14は皿である。9はB類で、比較的丁寧に整形している。10・11はC類で、11の口縁には灯心痕が1箇所認められる。12～14はD類で、12が口径10.4～10.9cmを測りD$_1$類、13・14がそれぞれ口径16.1cm、15.0cmを測りD$_2$類となる。12の口縁にはほぼ全周にわたって厚いタール痕が認められる。13はいわゆる「内カワラケ」である。

瀬戸・美濃焼　15・16は鉄釉を施すものである。15は天目茶碗で、腰部以下には比較的濃い錆釉を施す。16は瓶である。17・18は灰釉を施すものである。17は丸碗で、体部に櫛描きの文様をもつ。18は皿である。19は卸皿で、無釉の底部片である。

青磁　20～22は青磁である。20・22は碗で、体部に線描きの蓮弁文を施す。22は端反りの皿である。片切彫の蓮弁文をもつが、明確な鎬はない。

白磁　23～25は皿である。23は端反りの口縁をもつもので、高台畳付の釉を拭き取る。24は菊皿風の作りのものである。25は高台を弧状に削り込むもので、高台内に墨書が認められる。

染付　26・27は界線と水草文をもつ坏である。27は二次被熱により器面が荒れている。

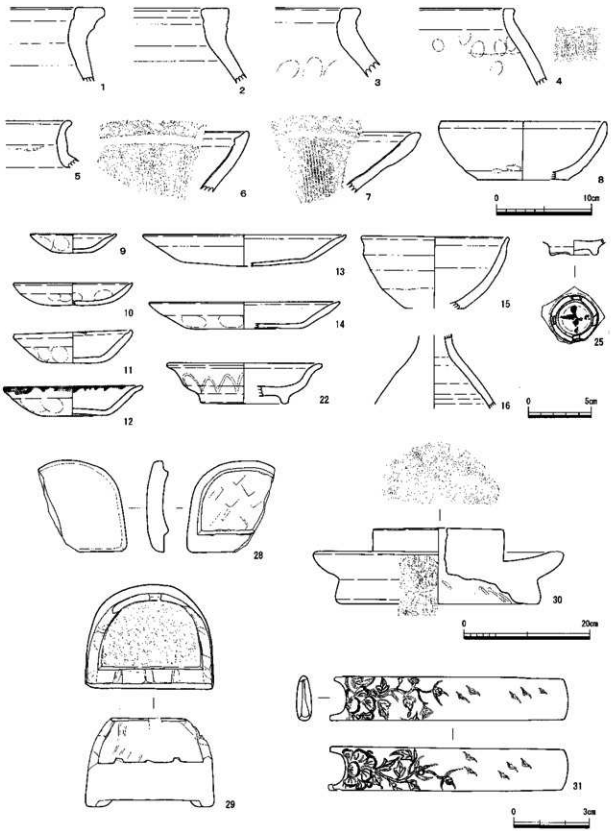
石製品　28は平面D字形をなすバンドコの蓋、29は同じく身である。30は茶臼の下臼で、臼面は8分画である。受け皿外面および台部の内外面は研磨せず、ツルによると考えられる粗い加工痕を残す。

木製品　31は刀子の鞘である。黒漆塗りで、牡丹と雁を組み合わせたほぼ同一の意匠を沈金により両面に施す。鯉口は赤く塗っている。

(田中)

表3　4トレンチ出土遺物一覧

器種				破片数	%
日本産陶磁器	越前焼		甕	91	
			壺	4	
			鉢	9	
			擂鉢	38	
			桶	1	
			計	143	12.21
	土師質		皿	905	
			壺	1	
			土釜	4	
			計	910	77.71
	瀬戸・美濃	鉄釉	碗	10	
			壺	1	
			鉢	2	
			小計	13	1.11
		灰釉	碗	1	
			皿	9	
			鉢	2	
			香炉	2	
			小計	14	1.20
			計	27	2.31
	瓦質			1	0.09
	須恵器			3	0.26
	土師器			9	0.77
	近世			8	0.68
	その他			1	0.09
	合計			1,102	94.11
中国製陶磁器	青磁		碗	18	
			皿	5	
			小計	23	1.96
	白磁		皿	16	1.37
	染付		碗	3	
			皿	15	
			小計	18	1.54
	計			57	4.87
朝鮮製陶磁器				5	0.43
外国産　合計				62	5.29
金属製品　小柄				1	0.09
石製品	バンドコ			1	
	玉石			1	
	臼			2	
	鉢			2	
	合計			6	0.51
総合計				1,171	100.00



第7図　出土遺物実測図（縮尺1/4・1/3・1/6・2/3）

3．西山光照寺跡整備工事（第８～10図、ＰＬ．５）

特別史跡指定地の北端に位置する西山光照寺跡は、遺跡導入部の重要なエリアである。平成22・23・25年度に発掘調査を実施した西山光照寺跡北区（第132・135・144次調査区）は、面積2,300㎡を測り、北に集落墓地、東に農道を挟んで山麓が広がっている。そして、西は御茸山麓の本調査地、南に既存の赤道を挟んで平成６・７年度に発掘調査を実施した西山光照寺跡南区（第86・87・90次調査区）が隣接する。この面積3,400㎡を測る南区を対象とした環境整備は平成10年度に既に完了しており[1]、今回、平成26年度から実施している北区を対象とした環境整備は、「第２期」の西山光照寺跡整備工事に位置づけられる。

北区の発掘調査では、敷地を上段・下段に区画する石垣、そして上段面を南北に区画する石組溝等を検出した。建物跡は礎石等の遺構の遺存状況が悪く、全体の形状は明確に出来なかった。しかし、大きく２棟の礎石建物の配置を確認した[2]。今回の整備工事では、これら検出された遺構について、保存管理計画および基本計画に基づいて露出展示・復元展示を行う計画である。

工事１年目にあたる平成26年度には、主に敷地北半を対象として、石垣復元工、舗装工、そして排水工を実施した[3]。工事２年目にあたる平成27年度は、26年度施工分とあわせて延長約100mにおよぶ石垣の復元工を完了させ、このほか、敷地南半を対象として水路復元工、舗装工、排水工を実施した[4]。

工事３年目にあたる今年度は、既整備地に隣接する南側地境を対象として、排水を目的とした側溝布設を実施した。今年度の工事により排水工がすべて完了した。

排水工　発掘調査時の素掘り溝を利用してＵ字側溝（31.6m）および集水桝（２基）を設置した。設置の目的は、敷地西側の谷あいに集まる表流水の一部の排水である。今年度に施工したのはＵ字側溝全長の約３／４にあたり、昨年度施工の水路復元工との兼ね合いから下流から施工した。Ｕ字側溝蓋については、西山光照寺跡の中心を横断する排水経路であることから、材質面での景観への配慮および強度面で見学者の往来を考慮し、昨年度と同様、玉砂利で化粧した鋳鉄製蓋とした。また、重量が重いため管理時に外すことが困難にならないよう、玉砂利の固定はしないこととした。

Ｕ字側溝の規格は縦横30cmで、側溝の折れ点に設置した集水桝の規格は、縦横50cm・深さ66cm（１基）および縦横50cm・深さ46cm（１基）である。

次年度以降の工事では、主に上段平坦面を対象とした礎石建物、溝、井戸などの露出展示を行うほか、石垣からの転落防止を目的とした植栽工を実施し、説明板の設置を行って整備を完了する計画である。

（熊谷）

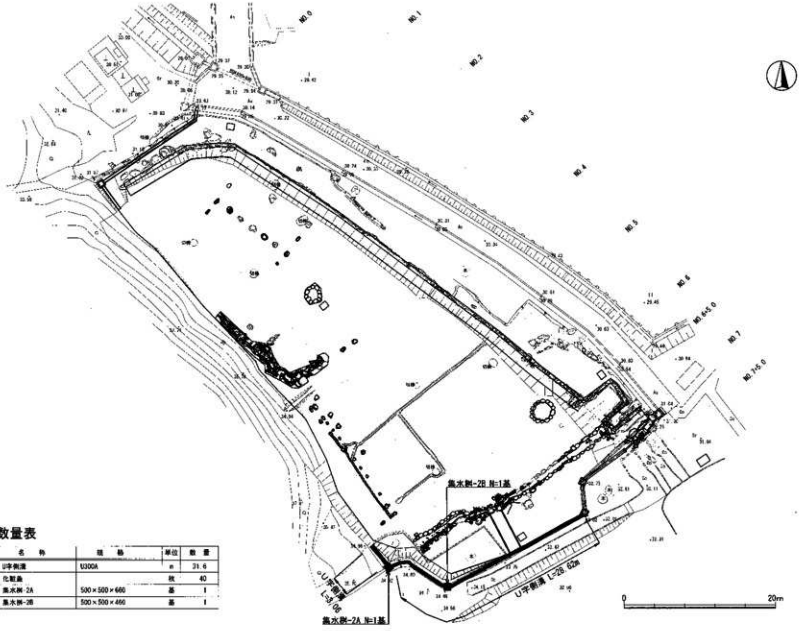
註

1　福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館　『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡1998(30)』、1999年、19頁参照。

2　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告11』、2015年、75-76頁参照。

3　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡45(2015)』、2016年、6頁参照。

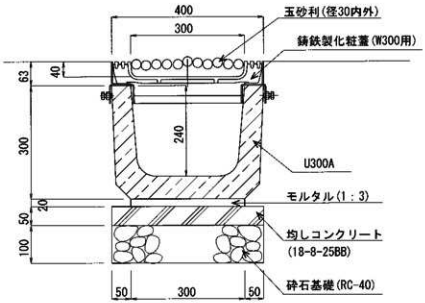
4　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター　『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡46(2016)』、2017年、6－7頁参照。



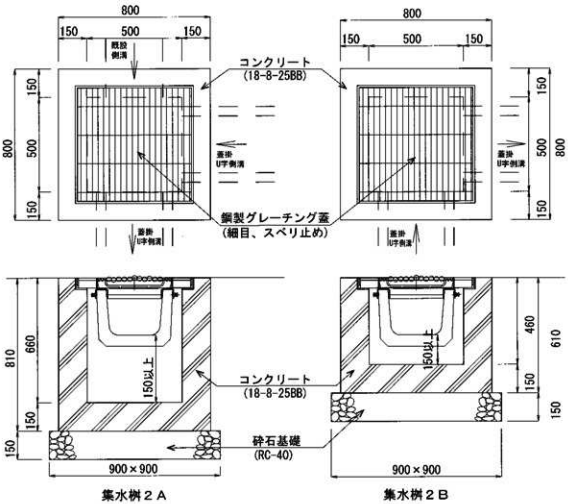
施設数量表

記号	名称	規格	単位	数量
	U字側溝	U300A	m	31.6
	化粧蓋		枚	40
□	集水桝-2A	500×500×660	基	1
□	集水桝-2B	500×500×460	基	1

第8図 内山地区 予察業務 1号平面図（縮尺1/500）



第９図　排水工　蓋掛U字側溝断面図（縮尺1/10）



第10図　排水工　集水桝構造図（縮尺1/20）

1～3トレンチ全景（東より）

1～3トレンチ全景（上が北）

1トレンチ全景（南より）

1トレンチ　SD6882土師質皿出土状況（東より）

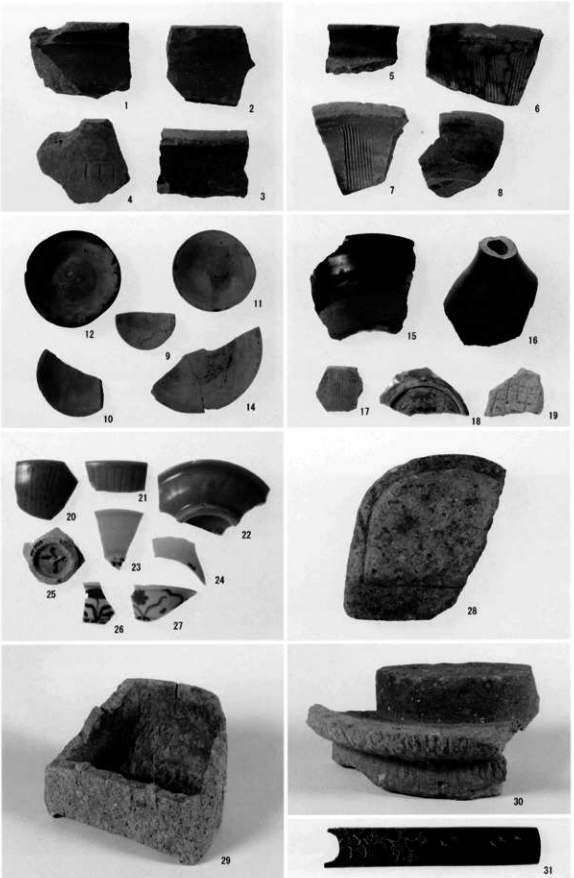
2トレンチ全景（南より）

2トレンチ　SD6942（南より）

3トレンチ全景（南より）

4トレンチ全景（西より）

4トレンチ　SA6945（西より）


1
2
4
3
5
6
7
8
12
11
9
10
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

排水工　全景（東より）

排水工　集水桝２B（西より）

排水工　集水桝２A（北より）

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき　いちじょうだにあさくらしいせき
書名	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡47
副書名	平成28年度発掘調査・環境整備事業概報
シリーズ番号	47
編著者名	熊谷透(編)　田中祐二
編集機関	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
所在地	〒910-2152　福井県福井市安波賀町4-10　TEL 0776-41-2301
発行年月日	平成30年3月16日

調査地区	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
第149次調査	福井市城戸ノ内町字門ノ内・上城戸	18210	史-31	35° 59′ 43″	136° 17′ 33″	160719 ～ 160930	300㎡	環境整備に伴う発掘調査
	東新町字上ノ木戸			35° 59′ 41″	136° 17′ 27″			

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第149次調査	城下町	室町・戦国	石組溝	沈金鞘	—

要約

上城戸跡周辺地区での解明すべき課題の一つである一乗谷川右岸側の幹線道路を確認することを目的として、城戸ノ内町字上城戸・門ノ内においてトレンチ調査を実施した。その結果、砂利敷き面など明確な道路面は確認できなかったが、東の山際から一乗谷川の方向へ延びる石組溝を検出した。これが幹線道路に伴う遺構であるかどうかは今後の調査の課題である。

また、以上のほか、上城戸跡南側の県道沿いで遺構の遺存状況を確認するためのトレンチ調査を実施した。その結果、大部分では遺構面が削平されている状況を確認したが、一乗谷川に近いところで石列をもつ段を検出しており、過去の調査で確認している川沿いの土塁に連なる可能性が考えられる。

特別史跡
一乗谷朝倉氏遺跡47
平成28年度発掘調査・環境整備事業概報

発行年月日　平成30年3月16日
編集・発行　福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
印　　刷　白崎印刷株式会社